

3月の防除のポイント

平成31年2月28日

東京都病害虫防除所

主な作物の病害虫防除について、お知らせします。

<初夏どりキャベツの主要害虫の発消長と防除適期>

初夏どりキャベツで発生する主な害虫はコナガ、モンシロチョウ、ヨトウガ、アブラムシ及びネギアザミウマです。これらの害虫の発生時期と防除適期をご紹介します（下記の発生時期と防除適期は例年を参考にしたもので、これより早まるまたは遅れる可能性があります。ご自分の圃場をよく観察してください）。また、春は暖かくなり、その他の害虫も増える時期なので、圃場観察を怠らないようにしましょう。

・コナガ

薬剤に対する抵抗性が多く報告されており、防除が難しい重要害虫です。5月下旬より収穫時まで急激に増加します。防除適期は5月中旬～6月上旬です。

・モンシロチョウ

幼虫のピークは2回あり、防除適期は5月の連休明けと6月上旬です。微生物農薬のBT剤も含め殺虫剤はよく効きます。慣行栽培での被害は少なく、有機栽培で問題になることがあります。

・ヨトウガ

5月連休明け頃より幼虫が発生します。本種の卵は卵塊で産み付けられるため、幼虫が集団で生息する3齢幼虫初めまでに防除することが重要です。従って、防除適期は5月中・下旬となります。産卵時期の遅い卵塊では寄生蜂の寄生率が高まります。

・アブラムシ類

主にダイコンアブラムシとモモアカアブラムシが発生します。5月中旬より収穫期まで増加します。防除適期は5月中・下旬です。

・ネギアザミウマ

キャベツでは近年被害が問題となっている害虫です。5月下旬頃より急激に増加し、特に結球部の被害が問題となります。防除適期は5月中・下旬と6月上旬です。都内のネギで採集された個体群では、一部の農薬に対する抵抗性が報告されているので注意が必要です。

主要害虫の発生生態を知ることによって適期防除が可能となります。防除指針を参考にご自分の圃場にあった防除体系を作りましょう。

<施設トマト及びイチゴ>

施設栽培のイチゴのハダニ類は多発してからの防除は困難なため、発生状況を把握し適切な対策を取りましょう。ハダニ剤の多くは葉裏までしっかり噴霧することで効果が発揮されます。また、農薬に対する抵抗性が多く報告されているため、系統の異なる薬剤を選択しましょう。

促成栽培のトマト、イチゴで灰色かび病やうどんこ病が発生し始めています。両病害とも多発生してからの防除は困難ですので、発生を確認した場合は速やかに発病部位を除去し、施設外へ持ち出し適切に処分する等耕種的防除に努めましょう。また、薬剤を散布する場合は、耐性菌の発達を避けるため、系統の異なる薬剤をローテーション散布しましょう。

<育苗期の病害虫管理について>

春作に向けて、既に育苗を始めている方も多と思います。過去に大きな被害をもたらした病害のなかには、育苗時の感染が原因となっている場合も多いため、病害の発生が無い苗を育苗、定植することが重要となります。

育苗土は消毒済みのものを使用するほか、資材等に病原菌が付着している場合もあるため、育苗箱等の消毒も行いましょう。かん水が過度にならないようにする、頭上かん水を避ける等、育苗施設内が過湿状態にならないようにすることも重要です。また、ウイルス病を媒介するコナジラミ類、アザミウマ類やアブラムシ類の発生に注意し、確認した場合、防除指針を参考に薬剤防除を行いましょう。

上記以外の病害虫についてのご相談は、電話（042-525-8236）又はEメール（S0200303@section.metro.tokyo.jp）にてお問い合わせ下さい。